

共通理解を図る教育相談のあり方
—— 全校体制の取り組みを通して ——

糸満市立糸満南小学校教諭 新垣 弘

目 次

I	研究テーマ設定の理由	31
II	研究仮説	31
III	研究構想図	32
IV	研究内容	33
1	全校指導体制の確立	33
(1)	生徒指導のねらい	33
(2)	教育相談の方針	33
(3)	教育相談の方法	33
V	研究の成果と課題	40
1	成果	40
2	今後の課題	40

共通理解を図る教育相談のあり方

—— 全校体制の取り組みを通して ——

糸満市立糸満南小学校教諭 新垣 弘

I 研究テーマ設定の理由

学校の荒廃や親子関係の断絶等が大きな社会問題としてクローズアップされてから久しい。学校においても、いじめや不登校、自殺、万引き、喫煙、薬物乱用等の問題が深刻化している。これらの問題は、社会の急激な変化に伴い、生活様式の変化（核家族化・少子化）、地域社会の教育力の低下、親の教育力の低下（自信喪失）、価値観の多様化等が複雑に絡み合い、その指導を困難なものにしている。

このような厳しい状況の中で学校においても学力の向上、体験学習の重視、学校不適応児の対応等、社会から多くのものを求められている。学校現場ではこうした世の中のニーズに応えようと日々全力投球で取り組んでいるが、学校不適応児の問題一つを取り上げてみても事態は深刻である。

私たち学級担任は、40人ほどの子どもたちを受け持ち「個に応じた指導」をしたいと日々研修と実践に努めている。しかし、学校不適応の子どもを毎年かかえ、その子に応じた指導をし、みんなが楽しい学校生活を送れるようにと願い実践しているが、壁におちあたり一人で悩み苦しんでいる学級担任も少なくない。私も同様で、時には学年や先輩教師に悩みを打ち明けたりするが、忙しそうに毎日過ごしている同僚に気兼ねしたり、「これだけの問題を自分一人で解決できないなんて・・・。」と考えて、ひとり殻に閉じこもったりする時も多々あった。あの手この手を使って色々試すがうまくいかず、そのうち気が滅入ってしまい、学級から明るさがなくなっていく「はっと」我に返った時もあった。こんな事は自分一人だけと思っていたが、ほとんどの同僚が、教師としての自信が揺らぎ、精神的に不安定になったりする状況を経験していることを後で知った。

今まで、クラスの問題は学級担任として解決していかなくてはという気持ちで頑張ってきたが、問題の背景が多様化した現在では、担任一人では解決できない問題が増えてきている。。

これまでの学級経営を振り返ってみたとき

◆学級経営の中に教育相談を計画的に取り入れる必要があったのではないか。

（学級担任の立場から）

◆学級の問題を、学年・学校の問題としてもっと共通理解を図る場を多く設定する必要があったのではないか。（教育相談担当の立場から）

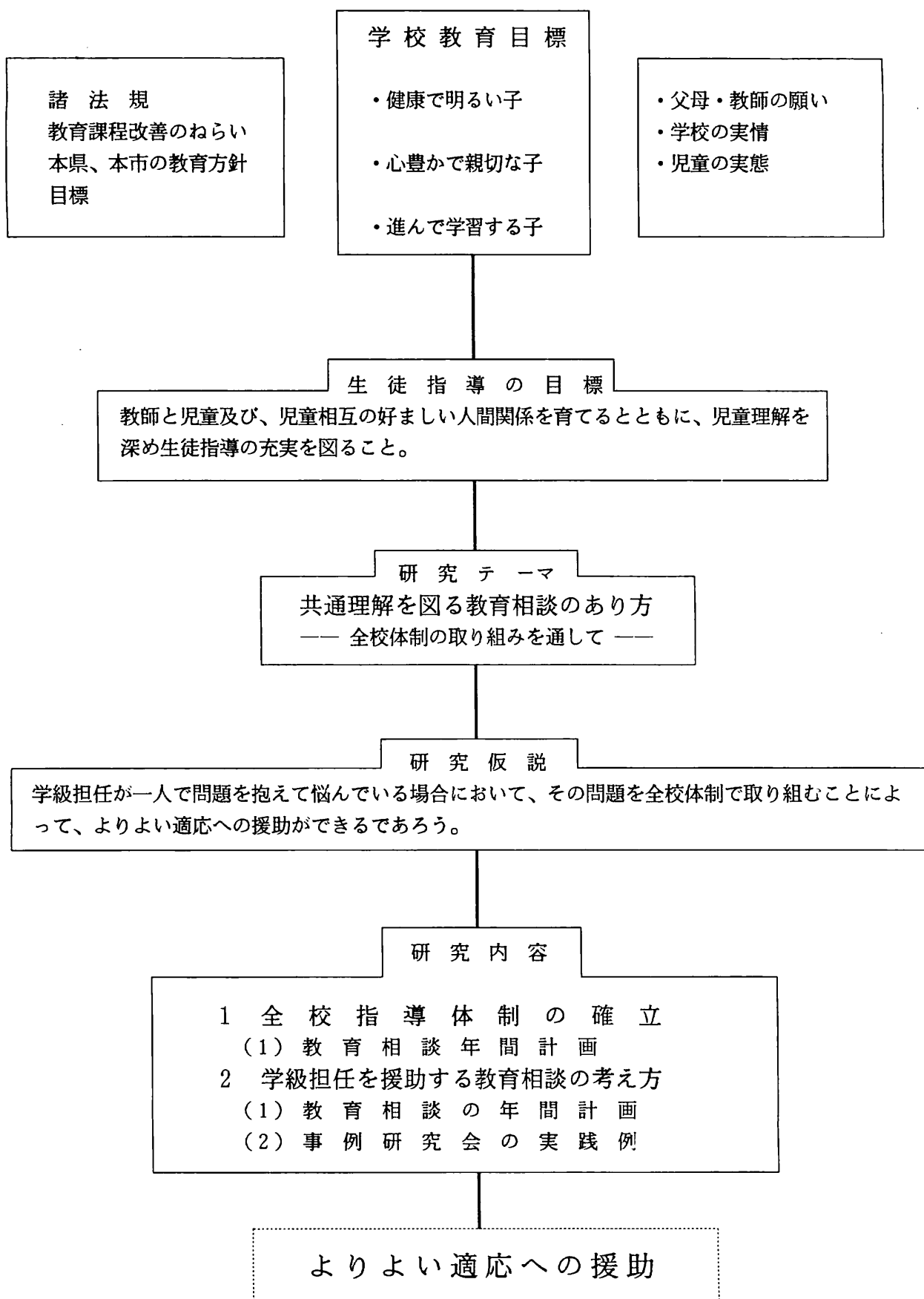
学校不適応児が増える傾向にあり、その背景が複雑になった今日では、担任一人では解決できないことが増えてきている。これから私達教師は、教育相談に関する研修を積み重ねることは無論のこと、個々で指導不十分な件に関してはさらに、横の連携・縦の連携といったチームワークで、対応する必要性が多く出てくるであろう。そのためには全校体制で取り組んでいく組織づくりと、組織の円滑な運営ができるような諸々の条件整備が大事になってくる。

そこで、全校体制で取り組むことにより、多様化した学校不適応児へのより望ましい適応への援助ができるものではないかと考え、本テーマを設定した。

II 研究仮説

- 1 学級担任が一人で問題を抱えて悩んでいる場合において、その問題を全校体制で取り組むことによって、より望ましい適応への援助ができるであろう。

Ⅲ 研究構想図



IV 研究内容

1 全校指導体制の確立

(1) 生徒指導のねらい

- ① 児童一人ひとりが健全な生活態度を身につけられるように援助する。
- ② 望ましい集団の育成をめざし、子どもたちが満足感、充実感を持って学校生活を送れるよう援助する。
- ③ けじめのある生活をさせ、たくましくがんばりぬく子の育成を図る

(2) 教育相談活動の方針

- ① 学級担任が一人で悩んでいる場合、一人の問題としてでなく全教師の問題として考え、共通理解を図りたい。（4月のスタート時に教育相談年間計画の共通理解を図る。）
- ② 事例研究会を実施し、共通理解の場・技術向上の場としたい。（原則として学期に1回実施する。）
- ③ 教育相談の年間計画をもとに、学級経営案に具体的に計画し実施していきたい。

(3) 教育相談活動の方法

① 教育相談年間計画

ア ねらい

全教師の共通理解のもと児童理解を深め、児童と心の交流を深めることにより、よりよい生活態度を身につけさせ、あわせて自己実現に向けて努力する児童を育成する。

イ 指導方針

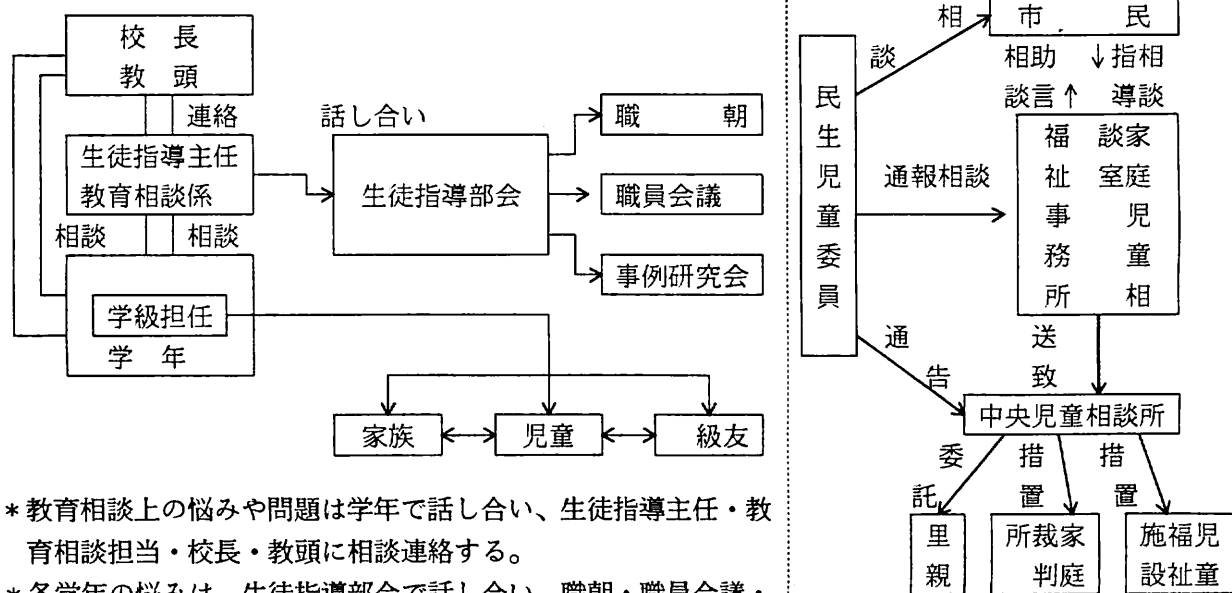
- (ア) 学級担任をはじめ、全職員が児童理解のために情報交換と報告、連絡をし、教育相談を推進する。
- (イ) 児童一人ひとりとの関係を密にして、児童相互、児童と教師との相互理解を図る。
- (ウ) 児童が自分に直面している問題を、自分自身の力で解決できるように援助する。
- (エ) 問題をもつ児童の早期発見と、問題行動の予防に努める。
- (オ) 第3木曜日の職員朝会は教育相談の日とし、「気になる児童」や「指導上困っている児童」の共通理解を図る場とする。

ウ 本年度の努力目標

- (ア) 健全な生活態度の形成を図る。
- (イ) 充実した学校生活を送れるように援助する。

エ 運営図

学校 ←連携→ 専門機関



* 教育相談上の悩みや問題は学年で話し合い、生徒指導主任・教育相談担当・校長・教頭に相談連絡する。

* 各学年の悩みは、生徒指導部会で話し合い、職朝・職員会議・

事例研究会等で、全職員に共通理解を図る。

* 学校は専門機関との連携を密にする。

オ 教育相談活動計画

(ア) 計画

月	ね ら い	内 容 と 方 法	参 考 資 料
4	学級児童の個性を知る。	一人ひとりの性格・家庭環境を理解しよさを見つける。	指導要録・家庭調査票 家庭訪問・(資料1)
5	個人の健康安全への理解を深める。	心身の健康についての悩みの相談をする	健康診断・保健診断・検査 (資料1)
6	学習方法が適切か考えさせ、学習意欲を高める。	学習を中心とした悩みについて、相談をする。	日課表・学習計画・学習態度のチェック (資料1)
7	生活面・学習面を反省し、より良い適応への意欲を高める。	1学期の反省をもとに、2学期への意欲付けをする。	1学期の反省・学習テスト 資料・学級PTA・(資料1)
8	計画にそった夏休みを過ごす態度を身につける。	気になる子の家庭を訪問したり、手紙・電話で連絡をとる。	暑中見舞い
9	運動会に向けての心構えを身につける。	行事に参加する心構え、行動の仕方等を話し合う。	運動会の意義・機敏な行動の必要性
10	児童の悩みを把握し、その対応を考える	学校生活や家庭生活での不満や困っている事を相談する	悩みの調査 生活態度調査 (資料1)
11	家庭学習の効果的方法を身につける。	家庭学習の計画表をもとに、家庭学習の仕方を相談する。	家庭学習調査票・生活実態調査・(資料1)
12	学期の生活を反省し、より充実した生活を送ろうとする態度を養う。	2学期を振り返り、反省をもとに3学期への意欲付けをする。	2学期の反省・学習テストの資料・学級PTA・(資料)
1	新年を迎え新年の生活への希望を持たせる。	今年の抱負をもとに、将来のことを考える。	私の目標 (資料1)
2	一人ひとりが自分を見つめ、振り返る。	自分や友達の良さ、頑張ったことを見つけ自信を持たせる。	頑張ったところ良いところ探し・(資料1)
3	1年の反省のもと、新学年への抱負を持たせる。	1年間を振り返る。 新学年への抱負を考える。	1年の反省・新学年で頑張りたいこと・春休みの計画

(資料1とは、教育相談活動計画のこと)

(イ) 巡回教育相談(島尻教育事務所主催)

巡回指導員から、学校不適応児の指導を仰ぐ。

(ウ) 関係機関との連携

学校は、福祉事務所、教育センター・児童相談所、民生委員などの教育相談機関とのより良い協力関係を作り、連携を図る。

2 学級担任を援助する教育相談の考え方

子どもたちを取り巻く社会の環境はめまぐるしく変化し、学校不適応の要因も様々な背景があり私達担任一人の力ではどのくらい対応できるかといった自信は揺らいできている。学級担任は自分の受け持った子どもたちに責任を感じる。それゆえに自分の力で解決しなければならないと思い込みいろいろ悩むのである。学級担任が子どもの問題で悩んでいる場合、「今自分がその立場だったらどう対応していくか。」と教師みんなの問題であるという意識で日々の指導にあたっていきたい。

(1) 各学級の教育相談活動計画の例

◆ 1学期は、主にリレーションづくりに重点がおかれる。クラス替えがあり、初めは関係の薄い集団である。友人同士がかかわる機会を意図的に設定し、友人関係の輪を広げることが必

◆ 3学期は、「学芸会」があり、まとめの時期でもあり、別れの季節である。「このクラスの仲間です」をいつまでもいたい」と子どもが思うような学級づくりをしたい。お互いのかかわり合いの中で生きてきたことをふりかえり、成長してきた自己を肯定する。また友達の個性を認めつつ、出会いと別れの意味を理解する。こうしたエクササイズを担当が意図的に計画するのに適している。

			目標 ○1学期をふりかえる ・ありがとうカード ・ごほうびカード ・パチパチカード ・自分への手紙 ・がんばり賞をあげよう	よう。 目標 ○1学期をふりかえる ・がんばり賞をあげよう	○基本的学習習慣の確立。 ・団結くずし ・サイコロトーク ・なんでもバスケット 目標 ○1学期をふりかえる ・ブラインドウォーク ・サイコロトーク
二 学 期	九 月	・始業式 ・運動会練習開始 ・校内童話大会 ・運動会	学級の実態 夏休み明けで、生活習慣が乱れている子もあり、学習に集中できない。	学級の実態 夏休み明けで暑さが続き、学習に集中できない。 行事を通して、一人ひとりが伸びる時期である。 目標 ○小集団だけでなく、学級集団にも目をむける。 ○力を合わせることのよさがわかる。 ○学校生活習慣の再定着。 ○自分のよさが見つけられる。 ・ほめあげ大会 ・ブラインド・ウォーク ・あなたの○○○が好きです ・してもらったこと、してあげたこと ・クリスマスツリー ・無人島SOS 目標 ○2学期をふりかえる ・がんばり賞 ・ありがとうカード ・パチパチカード ・自分への手紙	学級の実態 休み明けで学級のルールも乱れることもある。 行事を通して、学級学年の意識が強まる時期である。 目標 ○学校生活習慣の再定着。 ○集団の中で自己主張できる。 ○自分、集団のめあてに対して達成感を味わう。 ・サイコロトーク ・探偵ゲーム ・カード式グループ発想法 ・いいとこさがし ・10年後の私 ・団結くずし ・ブレンストーミング 目標 ○2学期をふりかえる ・サイコロトーク ・「自分ごころうさん」の手紙
	十 月	・糸満地区陸上競技大会 ・授業参観日	目標 ○自分のよさ、友達のよさを見つける。 ○いろいろな友達と遊ぶ。 ○グループ活動ができる。 ・カムオン	○なんでもバスケット	
	十 一 月	・社会見学 ・避難訓練 ・修学旅行 ・授業参観日 ・達成度テスト	・なんでもバスケット	・ほめあげ大会 ・ブラインド・ウォーク ・あなたの○○○が好きです ・してもらったこと、してあげたこと ・クリスマスツリー ・無人島SOS	・団結くずし ・ブレンストーミング
	十 二 月	・学級PTA ・学期末清掃 ・終業式	目標 ○2学期をふりかえる ・がんばり賞 ・ありがとうカード ・パチパチカード ・自分への手紙	目標 ○2学期をふりかえる ・がんばり賞あげようと ・自分への手紙	学級の実態 学年のまとめの時期 役割交代期 学芸会の取り組みで燃える。 残り少ない小学校生活を楽しむ。
	一	・始業式 ・学芸会	学級の実態 学年のまとめの時期	学級の実態 学年のまとめの時期 仲よし集団は存在するが、小集団の交流もでてくる。学級としてまとまってくる。	

月		仲良しグループでの遊びが活発化する。	男女仲はよいが、異性を意識する。	中学校生活への不安が高まる。
		目標	学級の特色がはっきり出てくる。	目標
		○学校生活習慣再定着化を図る。	○学校生活習慣再定着	○学校生活習慣再定着
		○自分について考え、達成感を持つことで、自己イメージを高める	○学年のまとめ。	○学級全体の凝集性を高める。
		○1年間のまとめをする。	○学級全体の凝集性を高める。	○ポジティブな自己概念を形成する。
		○進級への喜びと自覚、めあてを持つ。	○友達の個性を認め、肯定できる。	○出会いと別れの意味を理解する。
		Sケン ・がんばり賞をあげよと ・ありがとうカード ・パチパチカード ・自分への手紙 別れの手紙	○自己表現でき、自己肯定ができる。	・自分のしたいことベスト10 ・別れの花束
			○中学年から高学年になる意識を持つ。	・サイコロトーク
			・私はわたしよ ・Xさんからの手紙	・Xからの手紙 ・いとこさがし

*「エンカウンターで学級がかわる」参考

② 考察

ア 学級経営の中で、構成的グループ・エンカウンターを計画的に実施していくことにより、子どもたちはよりよい状態で学校生活に適応することができると考えられる。

イ 開発的・予防的教育相談を計画的に実施していくことにより、学校不適応におち入りやすい児童を未然に防止し、健康的な人間関係の形成に役立つものと考えられる。

(2) 事例研究会

① 事例研究会の意義

事例研究会の目標は大別すると、①学校内の協力体制、②学校外との協力体制、③事例に対する指導方針の確立とかわっている者の資質の開発である。①の例では、担任だけが事例にかかわり学校内で孤立してしまったとき、学年全体や養護教諭、学校管理者が事例の詳細について知ること、対応が円滑に進むようになる。②の例では、関わる教師の指導方針が違いため事例への対応が混乱をきたしているときに、関係者が意見を出し合い指導方針の一貫性が保てるようになる。③の例では、事例研究会に参加することによって、専門的立場の意見を聞き勉強することができ意識が高まってくる。

② 事例研究会の実践

ア 第 回校内研修（教育相談）

司会 < > 記録 < 年 >

イ 事例研究 <教育相談>

主な目的

- ・一つの事例をもとに、みんなで話し合うことにより共有しあい、さらに職員の相互理解を図る。
- ・児童理解を深めるとともに、該当児童の望ましい育成をめざした指導・援助方法を確立する。

ウ 進め方（インシデント・プロセス方式。最初の研修として使用）

時間	進 行 の 順 序	留 意 事 項
1 分	① 始めの言葉 ()	・事例発表会の進め方を理解する。
5 分	② 指導主事及び家庭児童相談員紹介	・事例を黙読し、情報を得る。
3 分	③ 研修会の進め方の説明（生徒指導主任	その時これまでの指導については伏せ

7分	④ 事例の確認（各自）	ておく。
10分	⑤ 質疑応答（一問一答方式）	・事例提供者に質問をし、詳しい情報を集める。
20分	⑥ グループ研修（各学年）	・事例提供者は、要領よく簡潔に答える。
20分	⑦ 全体研究会	・解決すべき問題点とその指導法、指導手順等について話し合う。
10分	⑧ 事例提供者の説明（指導の事実）	・各学年から発表してもらい、児童理解、指導法について共通理解を得る。
5分	⑨ 質疑応答	・事例提供者がどのように対処してきたかを聞き、それぞれの考えた対処法と比較する。
15分	⑩ 指導助言（主事）	・事例提供者の説明について質問があれば聞く。
15分	⑪ 専門機関との連絡（家庭児童相談員）	
3分	⑫ お礼の言葉（ ）	
1分	⑬ 終わりの言葉（ ）	

* 次回は指導法や組織等の問題点を発見する力を養う。具体的で実行可能な改善策を立案する（シカゴ方式）。

③ 事例の概要

B男児 高学年

ア 家族構成（同居）

4～7月・・・父親、祖母、本人、妹

11月現月・父親（入院）、祖母、本人、妹、叔母（父親の妹）、従姉、従妹、従姉の子

イ 出席状況

1学期	皆出席、無遅刻
9月	遅刻4（9：00～9：30登校）事故欠0
10月	遅刻5（8：30～9：40登校）事故欠1
11月	遅刻3（18日現在）

ウ これまでの行動

1学期

- ・明朗で人なつこく、よく話しかけてくる。
- ・身の回り、見だしなみに無頓着である。
- ・7月に父が入院する。本児は病院で泊まり、そこから登校する。
- ・夏休み父親が他の病院に移ったため、お見舞いにも行けなくなった。

2学期

（9月）・夏休みに夜遅（深夜12時）くまで、アパートの屋上で花火をしているのを補導されるところだった。（本人の話から）

- ・「早く帰ってゲーム遊びをしたい」という理由から、早く帰りたがる。（担任に、5校時を休憩時間にするようにせがむことがあった）
- ・父親の入院中に、祖母も入院という状況になり、アパートで妹と二人暮らしとなる。
- ・無断欠席をし、中3のU君とボーリング場で遊んでいるところを連れ戻される。

（10月）

- ・「夜遊びをした。」とだらしがなく、生気が感じられない。
- ・注意するために近寄ると、からかうような態度で逃げる。
- ・祖母が退院し、叔母の家で寝泊まりする。祖母の注意に反発し、家を出て外泊する。

(11月)

- ・朝寝坊して遅れることを電話してきたり、電話すると素直に応じて登校したりする。
- ・上履きを履かず素足である。
- ・友人関係は良好だが、些細なことでむくれっ面になる。
- ・対教師関係もよく、厳しさにも応じることができる。

④ 全体研究会

ア 各学年の問題点と指導法

1年 問題点…生活リズムが乱れている。遊技場への出入り。

指導法…教師との約束事の確立。外泊等の行為の意味を認識させる。

2年 問題点…住まいが2カ所になっている

問題点…住まいの改善 ・祖母との人間関係改善。

3年 問題点…生活リズムの乱れ。居場所がはっきりしない。

4年 指導法…叔母への問題点の説明、協力願い。自分の現状理解を図り、自己教育力の育成。

5年 指導法…親戚が何ができ何ができないかを知る。民生委員との連携。自己教育力の確立

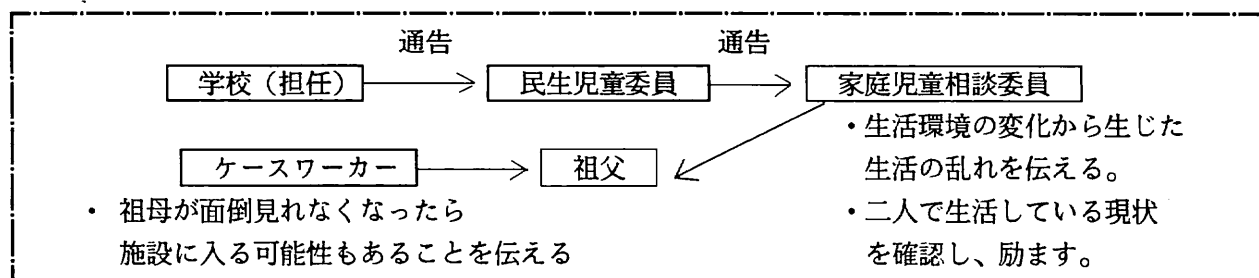
イ 事例提供者の説明（指導の事実）

- ・二学期から態度が少しずつ変わってくる。（遊びたいため4校時で帰りがる）
- ・学級全体でB君の家庭状態について話し合う。（B君が休んだとき）
- ・9月はクラスの子がおにぎりを持ってきてあげる。（9月いっぱい）
- ・おにぎりを持ってきたらまわりに甘える面が出てきた。
- ・担任が祖父の見舞いに行ったら、翌日ニコニコしてうれしそうな表情をしていた。
- ・「宝物ゲーム」をしたら、お金・ゲーム・家族・命の順であった。
- ・外で夜の12時まで過ごすようになって、学校に遅刻してきたり、だるそうだったり様子がおかしくなってきた。
- ・民生委員との連携をとって指導に当たっている。
- ・B君のいところから家庭の情報を得ている。

ウ 指導助言

- ・現状としては、あまり問題行動にはなっていないが、非行に走る可能性が大きい。
- ・B君は不登校時の要因（生活保護家庭・保護者の知的障害・基本的生活習慣の乱れ等）を抱えている。
- ・積極的教育相談の内容で、今日の校内研究は意義があった。
- ・全職員の共通理解が図れ、サポート関係が確立できた。

エ B君と専門機関との関わり



オ 家庭児童相談員の話し

- ・学校は、共通理解を図り取り組んでいるから、関係機関も踏ん張って改善させていきたい。
- ・私達と、学校との連絡がうまく取れているので今後も頑張っていきたい。
- ・保護課で市営住宅の手配し、住まいの改善を図る方向で進んでいる。

カ 事例提供者の感想

- ・先生方の色々な考えを聞くことができ、気持ちが明るくなった。有り難うございました。

- ・問題行動に対して再確認でき、指導するときの視点が絞られた。
- ・これまでの指導の留意すべき点等が明確にされ、今後の指導の見通しが持てた。
- ・本児童に対して職員間の共通理解が図られ連携がとれるようになった。
- ・問題行動が生じた時、自信を持って対応することができるし、また、職員に気軽に相談することができる。
- ・学校で対応できない経済面、生活の場の確保、基本的生活習慣の確立などの難しい問題があり、民生委員、家庭相談委員等への働きかけの重要性を感じた。

キ 職員の声

- ・事例研究会を持ったことで、B君の情報が入り全職員でサポートする体制ができてよかった。
- ・関係機関がB君に積極的に関わっているのを知り、頭が下がる思いであった。
- ・今後一人で悩まず、職員、関係機関に相談を持ちかけられる雰囲気が持てた。
- ・行政側の話も聞くことができ、行政側の取り組み状況が分かった。民生委員の仕組みや働きがわかり、どれくらいその事例に対応できるかということも知ることができたのでよかった。
- ・みんなからいろいろな対策方法を収集でき、多様な対応が可能になったと思う。
- ・学校内だけではなく、行政側との関わり方が学べてよかった。
- ・学校と教育委員会と役所の福祉の方の三者で話し合えたのは、大変意義深い。
- ・早期発見、早期治療の面からはよかった。
- ・年に数回事例研究会をもてたら素晴らしいし、悩んでいる子についての理解も深まるであろう。

⑤ 考察

- ア 担任が一生懸命指導しているB君を、事例研究会で他の意見を聞くことにより、今後の指導の見通しがついた。また、事例児を温かく見守ろうという雰囲気ができ、B君のために大切な会であった。
- イ 他の機関との連携がとれ、学校内外の協力体制が図られた。今後、担任だけで悩む事なく、他の職員、関係機関へ相談する体制が図られた意味で、有意義な研究会になった。
- ウ 事例研究会を、校内研に組み入れることによりより計画的な実施を図ることが今後重要となってくる。

V 研究の成果と課題

1 成果

- (1) 文献や資料を通して、教育相談に関する理論や援助のあり方に理解を深めることができた。特に開発的・予防的教育相談の理論を勉強し、開発的・予防的教育相談の重要性について認識することができ、それに基づいて年間計画を作ることができた。
- (2) 共通理解を図る上で事例研究会の理論研究、事例研究会を実施し、事例提供者や全職員の感想を聞くことによって、共通理解の必要性を痛感した。
- (3) 事例研究会を持つことにより、B君を全職員でサポートする体制ができた。事例提供者も他の職員の意見を聞くことで自分の指導に自信を持ったり、指導上弱い部分を強化することができた。
- (4) 指導主事や関係機関も参加することにより、関係機関の取り組みについて知ることができ、学校・地域・関係機関の間の協力体制が図れた。

2 課題

- (1) 常に「児童の個性を尊重し、児童理解に努める」ことを意識し、臨機応変に対応し、子どもを見るとき「モノサシ」をより多く持つように努める。
- (2) 共通理解を深める時の年間計画への位置付けを明確にして、気軽に相談しあえる雰囲気作りに努めたい。

<主な参考文献>

國分康孝	「学級担任のための育てるカウンセリング集」	明治図書	1998年
國分康孝	「エンカウンターで学級が変わる」	明治図書	1998年
文部省	「児童の理解と指導」	大蔵省印刷局	1998年